

山梨大学 工学部 正 花岡利幸
国際航業KK. 正 藤井雅雄

1. まえがき

観光地における観光リクリエーション利用の状況を示す資料として観光入込統計が存在するが、こればかりあいまいなものであることが従来より指摘されている。

そこで本研究では自然環境地への観光交通について既存資料を援用して、出来るだけ簡単な統一概念で観光交通を調査・推計する方法を考察した。

2. 観光地における観光交通

観光地における観光交通の特徴をあげると次のようである。

1. 交通自身に目的性格を有すること。そのために観光交通をODとして指えることがむずかしい場合がある。

2. 交通主体の地域占有概念。外から観光地に入ってくる人々によって行なわれるのが観光交通であって、そこに住んでいる人々が行なう交通とは区分して考えられること。

3. 交通の測定単位と空間の広がり。この特徴と関連して、ゾーンが観光交通の測定単位にならず、観光地域が測定単位となること。したがって、観光交通調査は、入込観光交通調査と域内観光流動調査の2段階に区別される調査が行なわれなければならないこと。

4. 交通の測定単位と時間。観光地を訪れる人々の時間変動は、年周を周期としているために、観光入込数の測定単位と1年間では、人回/年(実入込数)で把握され、測定単位を1日として定め、これを1年間についてみるという観測のしかたをすれば、人日/年(処入込数)で把握される。

5. 交通の内容。観光交通の内容としては、その観光地へ、なにをしに、どこから、どんな日程で、だれと、どんな乗物でといった、目的、居住地、滞在状況、形態、交通手段などがある。この中で特に重要な項目は、4との関係で滞在状況である。そしてこれは、

例えば、宿泊客、日帰り客、¹⁾立ち寄り客、²⁾通過客と分類される。

(従来の観光交通調査で明確にされていない部分に印を付した。)

3. 観光交通の調査法

(1). 観光地域の設定

観光地域の設定は、同質地域のグループिंगと調査の容易性を考慮して人為的に決定する。既存資料を援用した年間の観光交通を調査・推計するために観光地域を通過交通の有無によって3つのタイプに分ける。

タイプ1: 通過交通のない観光地域

タイプ2: 通過交通のある観光地域でその中に宿泊施設がある場合

タイプ3: 通過交通のある観光地域でその中に宿泊施設がない場合

(2). 入込観光交通調査・推計の実施¹⁾

次の順序で年間入込客推計のための資料を整える。

1. その観光地域の年周日変動、月変動、季節変動などを調査する。

2. ある日1日の入込人数調査を行なう。

3. 入込客の内容をサンプル調査する。

これらの結果の情報を観光地域タイプ別に組合せて年間入込客の推計を行なう。

(3). 観光域内流動調査の実施²⁾

域内をゾーン分割してゾーン間相互交通として流動を把握するか、域内の流動のルートを設定してこの交通量を調査するかである。現時点では域内流動調査の経験が少なくその方法論は固ま、ていない。域内の宿泊客に対して行なったアンケート調査に基づく事例研究を当日発表する。

1) 自然公園内の利用状況の把握手法の改善に因する調査研究；環境庁自然保護局，1977.3.

2) 観光開発の地域に及ぼす影響；長野県観光課，1976.3.